

## 院長 コラム



一緒に考えましょう  
健康のこと  
医療のこと

65

### 新型コロナウイルス感染症 について思うこと



市民病院  
院長 神谷里明

人なのか危険な人なのか判別がつきません。常に危険を伴っていると考えて行動しなければ感染するという危険を自分が負わなければなりません。人と直接会って話をするのがこんなに危険なことだという認識はありませんでした。活動、移動の制限を大きくかけることにより、収束していくことが期待されていますが、完全に人のつながりを断つことはできません。いつまで制限をしなければならぬのか正解はないと思います。ある程度収束してきたところで制限を解除してきていますが、再度感染拡大が見られることも考えられ、試行錯誤しながら前に進む必要があります。今まで知られていなかった感染症が広がることの恐ろしさを感じ知らせるウイルスです。できる限り早期の収束を望んでいます。が、一旦収まってもインフルエンザと同じように寒くなってくると再度流行する危険性が高いと考えられています。そのときに広がりを押さえるのは、一人ひとりが自分の行動に責任を持つて、今行っていることが周りにどのような影響を及ぼすのか考えながら行動することです。以前のように普通に人と会い、話や、食事ができる日ができれば早く来ることを願っています。

この原稿を書いている令和2年6月初旬時点では新型コロナウイルス感染は徐々に収まってきたており、非常事態宣言も解除されました。この感染症が表に現れてからまだ半年しか経っていません。しかしこのウイルスにより日本ばかりでなく世界中の日常生活、社会生活に重大な影響が出ています。活動、移動の制限が大きくかかり、不便な生活を強いられています。ただこの制限の中で今まで当たり前だに思っていたものが当たり前ではないことがよくわかってきました。普通に人と会って、話をする場合によっては非常に危険を伴うことです。ウイルスは目に見えませんが、今回のウイルス感染症は感染していても症状の出ない時期や、人が存在します。そのことにより目の前の人が安全な